



PATENT APPLICATION



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Application of:

TAKAO TAKIGUCHI ET AL.

Application No.: 09/961,075

Filed: September 24, 2001

For: LUMINESCENCE DEVICE,
DISPLAY APPARATUS AND
METAL COORDINATION
COMPOUND

Examiner: Not Yet Assigned

Group Art Unit: 2878

November 29, 2001

RECEIVED
FEB 17 2 34
TC 2803 MAIL ROOM

Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

CLAIM TO PRIORITY

Sir:

Applicants hereby claim priority under the International Convention and all rights to which they are entitled under 35 U.S.C. § 119 based upon the following Japanese

Priority Applications:

292492-2000 September 26, 2000

292493-2000 September 26, 2000

358741-2000 November 27, 2000

358742-2000 November 27, 2000

255537-2001 August 27, 2001

284599-2001 September 19, 2001

Certified copies of the priority documents are enclosed.

RECEIVED
DEC - 4 2001

Applicants' undersigned attorney may be reached in our New York office by telephone at (212) 218-2100. All correspondence should continue to be directed to our address given below.

Respectfully submitted,


Attorney for Applicants

Registration No. 48,512

FITZPATRICK, CELLA, HARPER & SCINTO
30 Rockefeller Plaza
New York, New York 10112-3801
Facsimile: (212) 218-2200

NY_MAIN 220820 v 1

RECEIVED
FEB 17 2011
TC 2.00 MAIL ROOM

CFE 3254 US (1/6)
292492 / 2000

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 9月26日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-292492

出 願 人

Applicant(s):

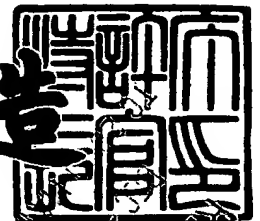
キヤノン株式会社

RECEIVED
NOV 17 2001
TC 2800 MAIL ROOM

2001年10月19日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3091961

【書類名】 特許願

【整理番号】 4315003

【提出日】 平成12年 9月26日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H05B 33/00

【発明の名称】 発光素子

【請求項の数】 5

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 滝口 隆雄

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 坪山 明

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 岡田 伸二郎

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 森山 孝志

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 鎌谷 淳

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社

社内

【氏名】 水谷 英正

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

【識別番号】 100096828

【弁理士】

【氏名又は名称】 渡辺 敬介

【電話番号】 03-3501-2138

【選任した代理人】

【識別番号】 100059410

【弁理士】

【氏名又は名称】 豊田 善雄

【電話番号】 03-3501-2138

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 004938

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9703710

【プルーフの要否】 要

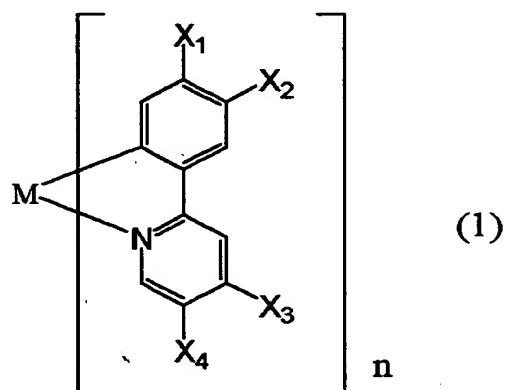
【書類名】 明細書

【発明の名称】 発光素子

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 下記一般式（1）で示される金属配位化合物を含む有機化合物層を有することを特徴とする発光素子。

【化 1】



〔式中MはIr, RhまたはPdであり、nは2または3である。X₁、X₂、X₃、X₄はそれぞれ独立して水素原子、ハロゲン原子、ニトロ基、トリフルオロメチル基、トリアルキルシリル基（該アルキル基はそれぞれ独立して炭素原子数1から8の直鎖状または分岐状のアルキル基である。）、炭素原子数2から20の直鎖状または分岐状のアルキル基（該アルキル基中の1つもしくは隣接しない2つ以上のメチレン基は—O—、—S—、—CO—、—CO—O—、—O—CO—、—CH=CH—、—C≡C—で置き換えられていてもよく、該アルキル基中の水素原子はフッ素原子に置換されていてもよい。）を示す。ただし、X₁、X₂、X₃、X₄のうち少なくとも1つは水素原子ではない。〕

【請求項 2】 前記一般式（1）において、X₃、X₄の少なくとも一方が水素原子であることを特徴とする請求項 1 記載の発光素子。

【請求項 3】 前記一般式（1）において、X₁、X₂の少なくとも一方が水素原子であり、かつX₃、X₄の少なくとも一方が水素原子であることを特徴とする請求項 1 記載の発光素子。

【請求項 4】 前記一般式（1）において、X₁、X₂、X₃、X₄の1つが水素原子でないことを特徴とする請求項 1 記載の発光素子。

【請求項5】 前記金属配位化合物を含む有機化合物層が、対向する2つの電極に挟持され、該電極間に電圧を印加することにより発光する電界発光素子であることを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載の発光素子。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、有機化合物を用いた発光素子に関するものであり、さらに詳しくは前記一般式(1)で示される金属配位化合物を発光材料として用いる有機エレクトロルミネッセンス素子に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

有機EL素子は、高速応答性や高効率の発光素子として、応用研究が精力的に行われている。その基本的な構成図1(a)・(b)に示した[例えばMacromol. Symp. 125, 1～48(1997)参照]。

【0003】

図1に示したように、一般に有機EL素子は透明基板15上に透明電極14と金属電極11の間に複数層の有機膜層から構成される。

【0004】

図1(a)では、有機層が発光層12とホール輸送層13からなる。透明電極14としては、仕事関数が大きなITOなどが用いられ、透明電極14からホール輸送層13への良好なホール注入特性を持たせている。金属電極11としては、アルミニウム、マグネシウムあるいはそれらを用いた合金などの仕事関数の小さな金属材料を用い有機層への良好な電子注入性を持たせる。これら電極には、50～200nmの膜厚が用いられる。

【0005】

発光層12には、電子輸送性と発光特性を有するアルミキノリノール錯体など(代表例は、化2に示すA1q3)が用いられる。また、ホール輸送層13には、例えばトリフェニルジアミン誘導体(代表例は、化2に示すα-NPD)など電子供与性を有する材料が用いられる。

【0006】

以上の構成した素子は整流性を示し、金属電極11を陰極に透明電極14を陽極になるように電界を印加すると、金属電極11から電子が発光層12に注入され、透明電極15からはホールが注入される。

【0007】

注入されたホールと電子は発光層12内で再結合により励起子が生じ発光する。この時ホール輸送層13は電子のブロッキング層の役割を果たし、発光層12／ホール輸送層13界面の再結合効率が上がり、発光効率が上がる。

【0008】

さらに、図1(b)では、図1(a)の金属電極11と発光層12の間に、電子輸送層16が設けられている。発光と電子・ホール輸送を分離して、より効果的なキャリアブロッキング構成にすることで、効率的な発光を行うことができる。電子輸送層16としては、例えば、オキサジアゾール誘導体などを用いることができる。

【0009】

これまで、一般に有機EL素子に用いられている発光は、発光中心の分子の一重項励起子から基底状態になるときの蛍光が取り出されている。一方、一重項励起子を経由した蛍光発光を利用するのではなく、三重項励起子を経由したりん光発光を利用する素子の検討がなされている。発表されている代表的な文献は、文献1: Improved energy transfer in electrophosphorescent device (D. F. O'Brienら、Applied Physics Letters Vol 74, No3 p 422 (1999))、文献2: Very high-efficiency green organic light-emitting devices based on electrophosphorescence (M. A. Baldoら、Applied Physics Letters Vol 75, No1 p4 (1999))である。

【0010】

これらの文献では、図1(c)に示す有機層が4層構成が主に用いられている

。それは、陽極側からホール輸送層13、発光層12、励起子拡散防止層17、電子輸送層16からなる。用いられている材料は、化2に示すキャリア輸送材料とりん光発光性材料である。各材料の略称は以下の通りである。

Alq3：アルミ-キノリノール錯体

α -NPD：N4, N4'-Dinaphthalen-1-yl-N4, N4'-diphenyl-biphenyl-4, 4'-diamine

CBP：4, 4'-N, N'-dicarbazole-biphenyl

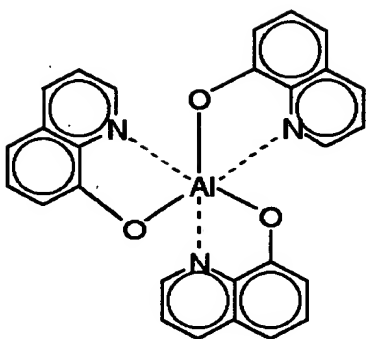
BCP：2, 9-dimethyl-4, 7-diphenyl-1, 10-pheanthroline

PtOEP：白金-オクタエチルポルフィリン錯体

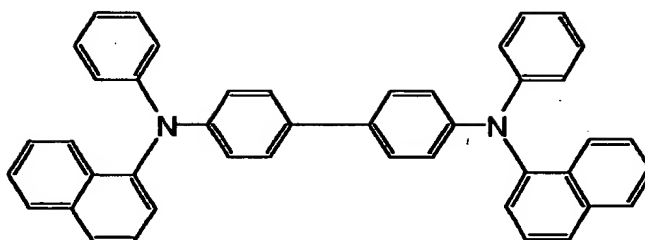
Ir(ppy)3：イリジウム-フェニルピリミジン錯体

【0011】

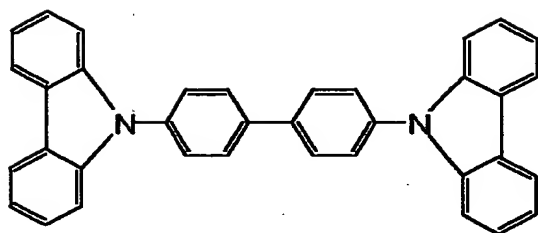
【化 2】



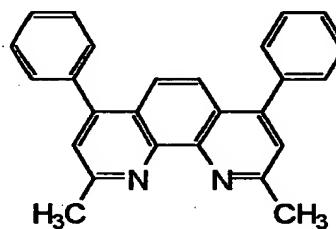
Alq3



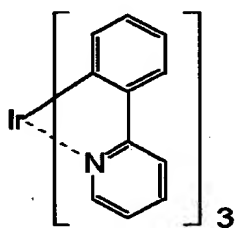
α -NPD



CBP



BCP



Ir(ppy)₃

【0012】

文献1，2とも高効率が得られたのは、ホール輸送層13に α -NPD、電子輸送層16にAlq3、励起子拡散防止層17にBCP、発光層12にCBPをホスト材料として、6%程度の濃度で、りん光発光性材料であるPtOEPまたはIr(ppy)₃を混入して構成したものである。

【0013】

りん光性発光材料が特に注目されている理由は、原理的に高発光効率が期待で

きるからである。その理由は、キャリア再結合により生成される励起子は1重項励起子と3重項励起子からなり、その確率は1:3である。これまでの有機EL素子は、1重項励起子から基底状態に遷移する際の蛍光を発光として取り出していたが、原理的にその発光収率は生成された励起子数に対して、25%でありこれが原理的上限であった。しかし、3重項から発生する励起子からのりん光を用いれば、原理的に少なくとも3倍の収率が期待され、さらに、エネルギー的に高い1重項からの3重項への項間交差による転移を考え合わせれば、原理的には4倍の100%の発光収率が期待できる。

【0014】

他に、三重項からの発光を要した文献には、特開平11-329739号公報（有機EL素子及びその製造方法）、特開平11-256148号公報（発光材料およびこれを用いた有機EL素子）、特開平8-319482号公報（有機エレクトロルミネッセント素子）等がある。

【0015】

また、第61回応用物理学会学術講演会講演予稿集、第三分冊、P1117, 6p-ZH-1（2000年）には本発明に近いメチル基置換したイリジウムフェニルピリミジン錯体が記載されている。

【0016】

【発明が解決しようとする課題】

上記、りん光発光を用いた有機EL素子では、特に通電状態の発光劣化が問題となる。りん光発光素子の発光劣化の原因は明らかではないが、一般に3重項寿命が1重項寿命より、3桁以上長いために、分子がエネルギーの高い状態に長く置かれるため、周辺物質との反応、励起多量体の形成、分子微細構造の変化、周辺物質の構造変化などが起こるのではないかと考えられている。

【0017】

いずれにしても、りん光発光素子は、高発光効率が期待されるが一方で通電劣化が問題となる。

【0018】

そこで、本発明は、高効率発光で、長い期間高輝度を保ち、通電劣化が小さい

発光素子を提供することを目的とする。

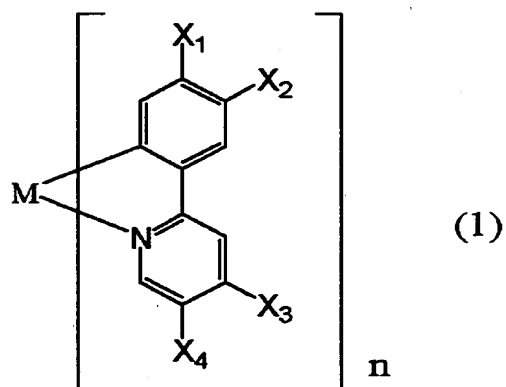
【0019】

【課題を解決するための手段】

即ち、本発明の発光素子は、下記一般式（1）で示される金属配位化合物を含む有機化合物層を有することを特徴とする。

【0020】

【化3】



〔式中MはIr, RhまたはPdであり、nは2または3である。X₁、X₂、X₃、X₄はそれぞれ独立して水素原子、ハロゲン原子、ニトロ基、トリフルオロメチル基、トリアルキシルシリル基（該アルキル基はそれぞれ独立して炭素原子数1から8の直鎖状または分岐状のアルキル基である。）、炭素原子数2から20の直鎖状または分岐状のアルキル基（該アルキル基中の1つもしくは隣接しない2つ以上のメチレン基は-O-、-S-、-CO-、-CO-O-、-O-CO-、-CH=CH-、-C≡C-で置き換えられていてもよく、該アルキル基中の水素原子はフッ素原子に置換されていてもよい。）を示す。ただし、X₁、X₂、X₃、X₄のうち少なくとも1つは水素原子ではない。〕

【0021】

本発明の発光素子は、前記一般式（1）において、X₃、X₄の少なくとも一方が水素原子であること、前記一般式（1）において、X₁、X₂の少なくとも一方が水素原子であり、かつX₃、X₄の少なくとも一方が水素原子であること、前記一般式（1）において、X₁、X₂、X₃、X₄の1つが水素原子でないことが好ましい。

【0022】

また、前記金属配位化合物を含む有機化合物層が、対向する2つの電極に挟持され、該電極間に電圧を印加することにより発光する電界発光素子であることが好ましい。

【0023】

【発明の実施の形態】

発光層が、キャリア輸送性のホスト材料とりん光発光性のゲストからなる場合、3重項励起子からのりん光発光にいたる主な過程は、以下のいくつかの過程からなる。

1. 発光層内での電子・ホール輸送
2. ホストの励起子生成
3. ホスト分子間の励起エネルギー伝達
4. ホストからゲストへの励起エネルギー移動
5. ゲストの三重項励起子生成
6. ゲストの三重項励起子→基底状態時のりん光発光

【0024】

それぞれの過程における所望のエネルギー移動や、発光はさまざまな失活過程と競争でおこる。

【0025】

EL素子の発光効率を高めるためには、発光中心材料そのものの発光量子収率が大きいことは言うまでもない。しかしながら、ホスト-ホスト間、あるいはホスト-ゲスト間のエネルギー移動が如何に効率的にできるかも大きな問題となる。また、通電による発光劣化は今のところ原因は明らかではないが、少なくとも発光中心材料そのもの、または、その周辺分子による発光材料の環境変化に関連したものと想定される。

【0026】

そこで本発明者らは種々の検討を行い、前記一般式(1)で示される金属配位化合物を発光中心材料に用いた有機エレクトロルミネッセント素子が高効率発光で、長い期間高輝度を保ち、通電劣化が小さいことを見出した。

【 0 0 2 7 】

前記一般式 (1) で示される金属配位化合物のうち X_3 、 X_4 の少なくとも一方が水素原子の場合が好ましく、 X_1 、 X_2 の少なくとも一方が水素原子でかつ X_3 、 X_4 の少なくとも一方が水素原子である場合がより好ましい。さらに、 X_1 、 X_2 、 X_3 、 X_4 の 1 つが水素原子でない場合が好ましい。

【 0 0 2 8 】

本発明に用いた金属配位化合物は、りん光性発光をするものであり、最低励起状態が、3 重項状態の MLCT* (Metal-to-Ligand charge transfer) 励起状態か $\pi-\pi^*$ 励起状態と考えられる。これらの状態から基底状態に遷移するときりん光発光が生じる。

【 0 0 2 9 】

本発明の発光材料のりん光収率は、0.1 から 0.9 と高い値が得られ、りん光寿命は $1 \sim 60 \mu\text{sec}$ と短寿命であった。りん光寿命が短いことは、EL 素子にしたときに高発光効率化の条件となる。すなわち、りん光寿命が長いと、発光待ち状態の 3 重項励起状態の分子が多くなり、特に高電流密度時に発光効率が低下すると言う問題があった。本発明の材料は、高りん光発光収率を有し、短りん光寿命をもつ EL 素子の発光材料に適した材料である。また、本発明の金属配位化合物の置換基 X_1 、 X_2 、 X_3 、 X_4 を換えることにより発光波長を調節することが期待できる。以上のような観点からも、本発明の金属配位化合物は EL 素子の発光材料として適している。

【 0 0 3 0 】

さらに、以下の実施例に示すように、通電耐久試験において、本発明の化合物は、安定性においても優れた性能を有することが明らかとなった。本発明の特徴である置換基が導入されたことによりホスト材料などとの分子間相互作用を制御することができ、熱失活の原因となる励起会合体形成の抑制が可能になったと考えられ、消光過程が減少したりすることにより素子特性が向上したものと考えている。また、前述の第 61 回応用物理学会学術講演会講演予稿集，第三分冊，P 1117，6 p-ZH-1 (2000 年) に記載されたメチル基置換したイリジウム-フェニルピリミジン錯体のメチル基は、本発明のエチル基やメトキシ基な

どに比べて嵩高さが小さく、本発明のハロゲン原子やトリフルオロメチル基やメトキシ基などに比べて電子効果も小さいため本発明の分子間相互作用を制御する効果が期待できない。

【0031】

また、りん光発光材料の場合、発光特性が、その分子環境に強く依存する。蛍光発光素子の場合、発光材料の基本的性質はフォトルミネッセンスで検討されるが、りん光発光の場合は周囲にあるホスト分子の極性の強さ、温度、固体／液体に依存するので、フォトルミネッセンスの結果が、EL素子の発光特性を反映しない場合が多い。フォトルミネッセンスの結果から一部の特性を除いてEL特性を見積もることは一般にできない。

【0032】

本発明の発光素子は、図1に示す様に、金属配位化合物を含む有機化合物層が、対向する2つの電極に挟持され、該電極間に電圧を印加することにより発光する電界発光素子であることが好ましい。

【0033】

本発明で示した高効率な発光素子は、省エネルギーや高輝度が必要な製品に応用が可能である。応用例としては表示装置・照明装置やプリンターの光源、液晶表示装置のバックライトなどが考えられる。表示装置としては、省エネルギーや高視認性・軽量なフラットパネルディスプレイが可能となる。また、プリンターの光源としては、現在広く用いられているレーザビームプリンタのレーザ光源部を、本発明の発光素子に置き換えることができる。独立にアドレスできる素子をアレイ上に配置し、感光ドラムに所望の露光を行うことで、画像形成する。本発明の素子を用いることで、装置体積を大幅に減少することができる。照明装置やバックライトに関しては、本発明による省エネルギー効果が期待できる。

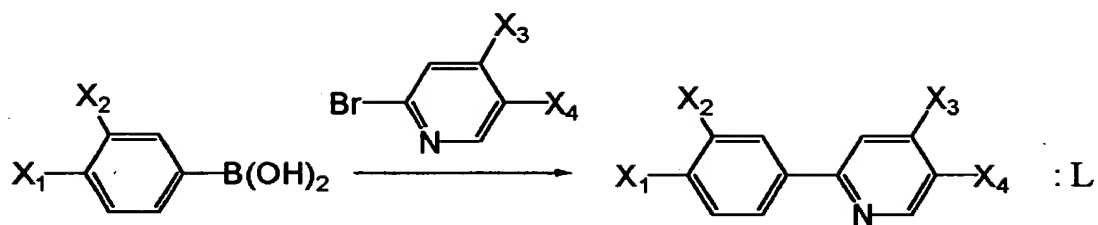
【0034】

本発明で用いられる前記一般式(1)で示される金属配位化合物の合成経路をイリジウム配位化合物を例として示す。

配位子Lの合成

【0035】

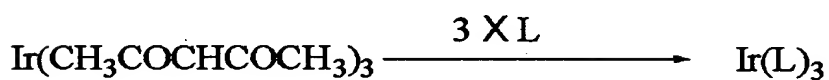
【化 4】



イリジウム配位化合物の合成

【0 0 3 6】

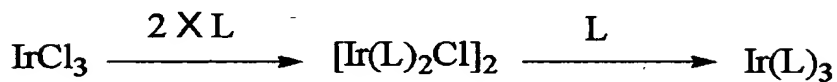
【化 5】



または

【0 0 3 7】

【化 6】



【0 0 3 8】

以下本発明に用いられる金属配位化合物の具体的な構造式を表 1 から表 4 に示す。但し、これらは、代表例を例示しただけで、本発明は、これに限定されるものではない。

【0 0 3 9】

【表 1】

No.	M	n	X ₁	X ₂	X ₃	X ₄
(1)	Ir	3	H	F	H	H
(2)	Ir	3	F	F	H	H
(3)	Ir	3	H	Cl	H	H
(4)	Ir	3	H	F	OCH ₃	H
(5)	Ir	3	H	F	H	Br
(6)	Ir	3	C ₂ H ₅	H	H	H
(7)	Ir	3	H	NO ₂	H	H
(8)	Ir	3	H	NO ₂	H	CF ₃
(9)	Ir	3	H	NO ₂	NO ₂	H
(10)	Ir	3	H	NO ₂	OC ₁₁ H ₂₃	H
(11)	Ir	3	H	C ₃ H ₇	H	H
(12)	Ir	3	C ₂ H ₅	OCH ₃	H	H
(13)	Ir	4	H	C ₃ H ₇	OC ₄ H ₉	H
(14)	Ir	3	C ₂₀ H ₄₁	H	H	H
(15)	Ir	3	H	OCH ₃	H	H
(16)	Ir	3	OCH ₃	OCH ₃	H	H
(17)	Ir	3	H	OCH(CH ₃) ₂	H	H
(18)	Ir	3	H	OC ₅ H ₁₁	H	H
(19)	Ir	3	H	OC ₁₈ H ₃₃	H	H
(20)	Ir	3	H	OCH ₃	OCH ₃	H
(21)	Ir	3	H	OCH(CH ₃) ₂	OCH ₃	H
(22)	Ir	3	H	OC ₁₀ H ₂₁	NO ₂	H
(23)	Ir	3	H	OCH(CH ₃) ₂	H	CF ₃
(24)	Ir	3	H	SCH ₃	H	H
(25)	Ir	3	OCH ₂ CH=CH ₂	H	H	H
(26)	Ir	3	H	OCH ₂ C≡CCH ₃	H	H
(27)	Ir	3	H	COCH ₃	H	H
(28)	Ir	3	H	COCH ₃	NO ₂	H
(29)	Ir	3	H	COCH ₃	H	CF ₃
(30)	Ir	3	H	COCH ₃	OCH ₃	H

【 0 0 4 0 】

【表 2】

No.	M	n	X ₁	X ₂	X ₃	X ₄
(31)	Ir	3	H	COC ₉ H ₁₉	H	H
(32)	Ir	3	H	CF ₃	H	H
(33)	Ir	3	H	CF ₃	H	CF ₃
(34)	Ir	3	H	CF ₃	NO ₂	H
(35)	Ir	3	H	CF ₃	OCH(CH ₃) ₂	H
(36)	Ir	3	C ₃ F ₇	H	H	H
(37)	Ir	3	H	OCF ₃	H	H
(38)	Ir	3	OCF ₃	H	H	H
(39)	Ir	3	H	OCF ₃	NO ₂	H
(40)	Ir	3	H	OCF ₃	H	CF ₃
(41)	Ir	3	H	OCF ₃	OCH ₃	H
(42)	Ir	3	H	OCH ₂ C ₃ F ₇	H	H
(43)	Ir	3	O(CH ₂) ₃ C ₂ F ₅	H	H	H
(44)	Ir	3	H	O(CH ₂) ₃ OCH ₂ C ₂ F ₅	H	H
(45)	Ir	3	H	COOC ₂ H ₅	H	H
(46)	Ir	3	OCOCH ₃	H	H	H
(47)	Ir	3	H	O(CH ₂) ₂ C ₃ F ₇	H	C ₅ F ₁₁
(48)	Ir	3	H	H	OCH ₃	H
(49)	Ir	3	H	H	H	CF ₃
(50)	Ir	3	H	H	H	NO ₂
(51)	Ir	3	H	Si(CH ₃) ₃	H	H
(52)	Ir	3	H	Si(CH ₃) ₂ C ₄ H ₉	H	H
(53)	Ir	3	Si(CH ₃) ₂ C ₈ H ₁₇	H	H	H
(54)	Ir	3	H	Si(C ₂ H ₅) ₃	H	H
(55)	Ir	3	H	H	Si(CH ₃) ₂ C ₆ H ₁₃	H
(56)	Ir	3	C ₂ H ₅	OCH ₃	OCH ₃	H
(57)	Ir	3	F	F	OCH ₃	H
(58)	Ir	3	F	F	OCH ₃	CF ₃
(59)	Ir	3	H	Si(CH ₃) ₃	H	Br
(60)	Ir	3	Si(CH ₃) ₂ C ₇ H ₁₅	OCH ₃	H	H

【0041】

【表 3】

No.	M	n	X ₁	X ₂	X ₃	X ₄
(61)	Rh	3	H	F	H	H
(62)	Rh	3	F	F	H	H
(63)	Rh	3	H	F	OCH ₃	H
(64)	Rh	3	H	NO ₂	H	H
(65)	Rh	3	H	NO ₂	OC ₈ H ₁₇	H
(66)	Rh	3	H	C ₂ H ₅	H	H
(67)	Rh	3	C ₂ H ₅	OCH ₃	H	H
(68)	Rh	3	C ₁₂ H ₂₅	H	H	H
(69)	Rh	3	C ₃ H ₇	H	OCH ₃	H
(70)	Rh	3	H	OCH(CH ₃) ₂	H	H
(71)	Rh	3	H	OC ₁₅ H ₃₁	H	H
(72)	Rh	3	H	OC ₆ H ₁₃	NO ₂	H
(73)	Rh	3	H	OCH ₃	OCH ₃	H
(74)	Rh	3	H	OCH(CH ₃) ₂	H	CF ₃
(75)	Rh	3	H	OCH ₂ CH=CH ₂	H	H
(76)	Rh	3	OC≡CC ₄ H ₉	H	H	H
(77)	Rh	3	H	SC ₂ H ₅	H	H
(78)	Rh	3	H	SCH ₃	OCH ₃	H
(79)	Rh	3	SCH ₃	SCH ₃	H	H
(80)	Rh	3	H	COCH ₃	H	H
(81)	Rh	3	H	COCH ₃	OCH ₃	H
(82)	Rh	3	H	CF ₃	H	H
(83)	Rh	3	H	CF ₃	OCH(CH ₃) ₂	H
(84)	Rh	3	H	OCF ₃	H	CF ₃
(85)	Rh	3	H	OCH ₂ C ₄ F ₉	H	H
(86)	Rh	3	H	O(CH ₂) ₆ C ₂ F ₅	H	H
(87)	Rh	3	H	H	OCH ₃	H
(88)	Rh	3	H	Si(CH ₃) ₃	H	H
(89)	Rh	3	Si(CH ₃) ₂ C ₆ H ₁₃	H	H	H
(90)	Rh	3	Si(CH ₃) ₂ C ₇ H ₁₅	OCH ₃	H	H

【 0 0 4 2 】

【表 4】

No.	M	n	X ₁	X ₂	X ₃	X ₄
(91)	Pd	2	H	F	H	H
(92)	Pd	2	F	F	H	H
(93)	Pd	2	H	F	OC ₇ H ₁₅	H
(94)	Pd	2	H	NO ₂	H	H
(95)	Pd	2	H	NO ₂	OC ₅ H ₁₁	H
(96)	Pd	2	C ₂ H ₅	OCH ₃	H	H
(97)	Pd	2	H	C ₅ H ₁₁	OCH ₃	H
(98)	Pd	2	C ₁₅ H ₃₁	H	H	H
(99)	Pd	2	H	OCH(CH ₃) ₂	H	H
(100)	Pd	2	H	OC ₃ H ₇	H	H
(101)	Pd	2	H	COC ₈ H ₁₇	H	H
(102)	Pd	2	H	CF ₃	H	H
(103)	Pd	2	H	CF ₃	OCH(CH ₃) ₂	H
(104)	Pd	2	H	OCF ₃	H	CF ₃
(105)	Pd	2	H	Si(CH ₃) ₃	H	H
(106)	Pd	2	H	F	OC ₅ H ₁₁	H
(107)	Pd	2	H	NO ₂	OC ₃ H ₇	H
(108)	Pd	2	H	C ₂ H ₅	OCH ₃	H
(109)	Pd	2	C ₁₀ H ₂₁	H	H	H
(110)	Pd	2	H	COCH ₃	H	H

【0 0 4 3】

【実施例】

本発明に用いた素子作成工程の共通部分を説明する。

【0 0 4 4】

素子構成として、図 1 (b) に示す有機層が 3 層の素子を使用した。ガラス基板 (透明基板 15) 上に 100 nm の ITO (透明電極 14) をパターニングして、対向する電極面積が 3 mm² になるようにした。その ITO 基板上に、以下の有機層と電極層を 10⁻⁴ Pa の真空チャンバー内で抵抗加熱による真空蒸着し、連続製膜した。

有機層 1 (ホール輸送層 18) (40 nm) : α -NPD

有機層 2 (発光層 12) (30 nm) : CBP : 金属配位化合物 (金属配位化合物重量比 5 重量%)

有機層 3 (電子輸送層 16) (30 nm) : Alq3

金属電極層 1 (15 nm) : AlLi 合金 (Li 含有量 1.8 重量%)

金属電極層 2 (100 nm) : Al

【0045】

ITO 側を陽極に Al 側を陰極にして電界を印加し、電流値をそれぞれの素子で同じになるように電圧を印加して、輝度の時間変化を測定した。一定の電流量は 70 mA/cm^2 とした。その時に得られたそれぞれの素子の輝度の範囲は $70 \sim 210 \text{ cd/m}^2$ であった。

【0046】

素子劣化の原因として酸素や水が問題なので、その要因を除くため真空チャンバーから取り出し後、乾燥窒素フロー中で上記測定を行った。

【0047】

(実施例 1～10、比較例 1)

比較例 1 では従来の発光材料として上記文献 2 に記載されている Ir (ppy) 3 を用いた。

【0048】

【表 5】

実施例 No.	発光材料 No.	輝度半減時間(時間)
1	(4)	750
2	(7)	500
3	(17)	900
4	(18)	850
5	(21)	850
6	(23)	500
7	(32)	600
8	(56)	700
9	(67)	400
10	(74)	450
比較例 1	Ir(ppy)3	350

【0049】

各化合物を用いた素子の通電耐久テストの結果を表 5 に示す。従来の発光材料

を用いた素子より明らかに輝度半減時間が大きくなり、本発明の材料の安定性に由来した耐久性の高い素子が可能になる。

【 0 0 5 0 】

【発明の効果】

以上説明のように、本発明で用いる金属配位化合物は、高りん光発光収率を有し、短りん光寿命をもつと共に、置換基 X_1 、 X_2 、 X_3 、 X_4 を換えることにより発光波長を調節することができ、EL素子の発光材料として適している。

【 0 0 5 1 】

その結果、該金属配位化合物を含む有機化合物層を有する本発明の発光素子は、高効率発光のみならず、長い期間高輝度を保ち、通電劣化が小さい、優れた素子である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の発光素子の一例を示す図である。

【符号の説明】

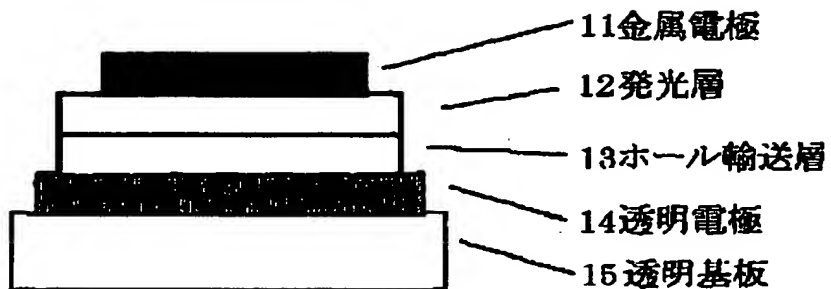
- 1 1 金属電極
- 1 2 発光層
- 1 3 ホール輸送層
- 1 4 透明電極
- 1 5 透明基板
- 1 6 電子輸送層
- 1 7 励起子拡散防止層

【書類名】

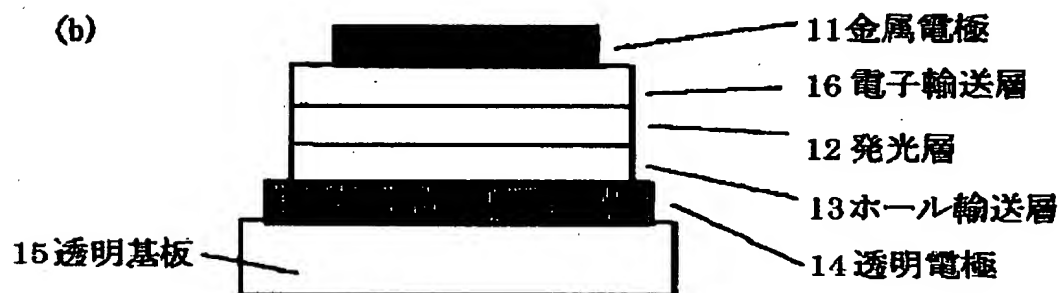
図面

【図1】

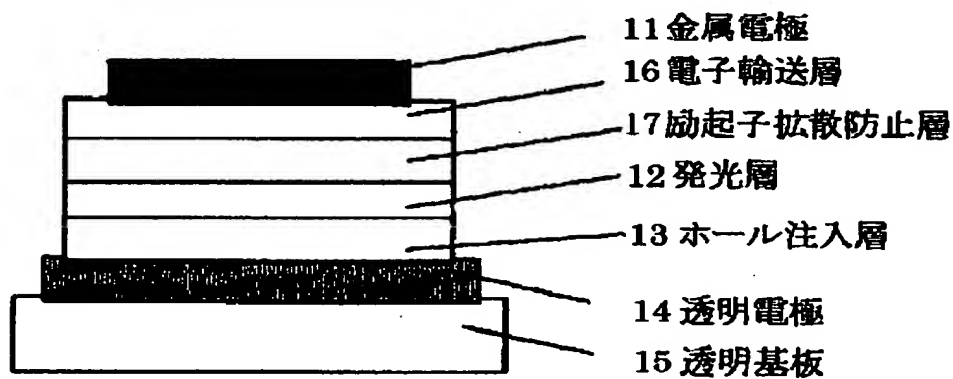
(a)



(b)



(c)



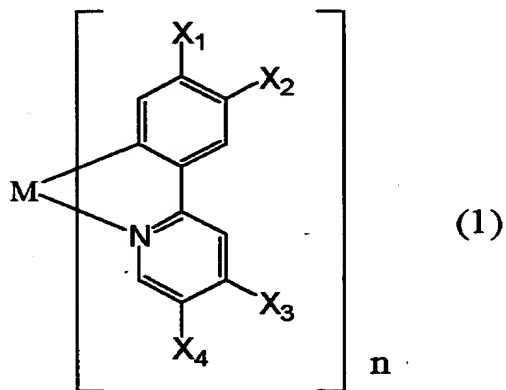
【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 高効率発光で、長い期間高輝度を保ち、通電劣化が小さい発光素子を提供する。

【解決手段】 下記一般式（１）で示される金属配位化合物を含む有機化合物層を有することを特徴とする発光素子。

【化１】



〔式中MはIr, RhまたはPdであり、nは2または3である。X₁、X₂、X₃、X₄はそれぞれ独立して水素原子、ハロゲン原子、ニトロ基、トリフルオロメチル基、トリアルキルシリル基（該アルキル基はそれぞれ独立して炭素原子数1から8の直鎖状または分岐状のアルキル基である。）、炭素原子数2から20の直鎖状または分岐状のアルキル基（該アルキル基中の1つもしくは隣接しない2つ以上のメチレン基は－O－、－S－、－CO－、－CO－O－、－O－CO－、－CH＝CH－、－C≡C－で置き換えられていてもよく、該アルキル基中の水素原子はフッ素原子に置換されていてもよい。）を示す。ただし、X₁、X₂、X₃、X₄のうち少なくとも1つは水素原子ではない。〕

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

氏 名 キヤノン株式会社